

Expressワークステーションや添付のソフトウェアの特長や導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順について順を追って説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

Expressワークステーションの特長(→2ページ)	Expressワークステーションの特長や添付(また は別売品)のソフトウェア、および各種オプショ ンとソフトウェアの組み合わせによって実現でき るシステム管理のための機能について説明してい ます。
導入のポイント(→5ページ)	Expressワークステーションをご利用されるシス テムを構築する際に知っておいていただきたい事 柄や、参考となるアドバイスが記載されていま す。
お客様登録(→10ページ)	…お客様登録の方法について説明しています。 Express5800シリーズ製品に関するさまざまな 情報を入手できます。ぜひお客様登録をしてくだ さい。
セットアップ(→11ページ)	Expressワークステーションをお使いになれるま でに必要な手順について順を追って説明していま す。
再セットアップ(→26ページ)	ハードディスクからオペレーティングシステムを 起動できなくなった場合にハードディスクの内容 を出荷時の状態に戻してから再セットアップする 方法について説明しています。

Expressワークステーションの特長

お買い求めになられたExpressワークステーションの特長を次に示します。

高 性能

- Intel[®] Pentium[®] 4 Processor搭載
- 高速1000BASE-T/100BASE-TX/
- 10BASE-Tインタフェース (1000Mbps/100Mbps/10Mbps対応)
- 高速ディスクアクセス(UltraATA100対応)

高 信頼性

- メモリ監視機能(1ビットエラー訂正/ 2ビットエラー検出)
- 温度異常検知
- 内蔵ファン回転監視機能
- 内部電圧監視機能
- BIOSパスワード機能





- PCIバスx2スロット
- AGPバスx1スロット
- 最大2GBの大容量メモリ
- ディスク2台搭載可能
- USB2.0対応



- ESMPRO/ServerAgent
- ESMPRO/ServerManager

す ぐに使える

Microsoft Windows XP Professional 日本語版また はMicrosoft Windows 2000 Professional 日本語版 がインストール済み



DUMPスイッチによるメモリダンプ機能



- Power On Self-Test(POST)
- システム診断(T&D)ユーティリティ



- サウンドスピーカ内蔵
- オーディオ端子(LINE-IN/LINE-OUT)搭載
- El Torito Bootable CD-ROM(no emulation mode)フォーマットをサポート
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能

便 利なセットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER(システムセットアップユーティリティ)
 - ExpressPicnic(セットアップパラメータFD作成ユーティリ ティ)
- CMOS Setup(BIOSセットアップユーティリティ)

スペース/省電力

- 87(W)×372(D)×304(H)mm(縦置き時)の省スペース設計
- 横置き可能
- スリープ(S1・S3)機能(オプションボードによっては機能しないものもある。ACPIサスペンドタイプとして、「S1」と「S3」をサポート。サスペンドタイプについては「ハードウェア編」の「省電力モードの起動」(59ページ)を参照。

前ページに示すとおりExpressワークステーションには、コンパクトなボディにさまざまな 機能が搭載されています。また、ESMPROシリーズとExpressワークステーションやオプ ションの周辺機器との組み合わせにより情報を一元管理したり、バックアップを容易にした 最適なシステムが構築できます。

各機能はそれぞれ以下のハードウェア、およびソフトウェアにより実現しています。

管理分野	必要なハードウェア	必要なソフトウェア
本体管理	Expressワークステーション本体	ESMPRO/ServerManager ESMPRO/ServerAgent
ディスク管理	ディスクミラーリングコントローラ*	FastCheck
ストレージ管理 (パックアッブ管理)	DATなど*	ESMPRO/ServerManager, ESMPRO/ServerAgent Windowsパックアップツール ARCserve for Windows NT* BackupExec*、NetBackup*
電源管理	無停電電源装置(UPS)*	PowerChute <i>plus</i> *
ネットワーク管理	100BASE-TX接続ボード	WebSAM/Netvisor*

* オプション製品。

本体管理

Expressワークステーションはマザーボード上に標準でリソース監視チップを搭載してお り、本体に内蔵されている以下の各種リソースを監視します。これらのハードウェア機能と Expressワークステーション管理用ソフトウェア「ESMPRO/ServerManager」、 「ESMPRO/ServerAgent」が連携し、本体の稼動状況などを監視するとともに万一の障害発 生時にはただちに管理者へ通報します。

監視対象	機能
CPU	稼動監視機能、CPU負荷率の監視機能/高負荷の予防機能
メモリ	ECCメモリビットエラー検出/訂正機能、メモリ使用率の管理機能
冷却ファン	CPUファン/筐体ファンの稼動状態の監視機能
温度	温度監視機能、温度異常時の起動抑止/停止機能
電圧	電圧監視機能、電圧異常時の起動抑止



ESMPRO/ServerManagerとESMPRO/ServerAgentは、Expressワークステーションに標準で添付されています。

各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

ストレージ管理(バックアップ管理)

大容量のストレージデバイスを搭載・接続できるExpressワークステーションを管理するために次の点について留意してください。

定期的なバックアップは、不意のシステムダウンに備える最も基本的な対応です。 Expressワークステーションには、データバックアップ用の大容量記憶装置と自動バック アップのための各種ソフトウェアが用意されています。容量や転送スピード、バックアップ スケジュールの設定など、ご使用になる環境に合わせて利用してください。

ネットワーク管理

ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentを使用することにより、Express ワークステーションに内蔵されているLANカードの障害や、回線の負荷率等を監視すること ができます。

また、別売のWebSAM/Netvisorを利用することにより、ネットワーク全体の管理を行うことができます。

電源管理

商用電源のトラブルは、システムを停止させる大きな原因のひとつです。 停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因と なる場合があります。

無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始める と、自動的にパッテリから電源を供給し、システムの停止を防ぎます。システム管理者は、 その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動 を抑え、電源装置の寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、 スケジュール等によるシステムの自動・無人運転を実現することもできます。 本装置のオプションとしてサポートしているUPSは、PowerChute *plus*で管理・制御しま す。

導入のポイント

Expressワークステーションを導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

システム構築のポイント

お使いになるシステムにExpressワークステーションを導入するにあたり、次の点について 留意してください。

まずはじめにExpressワークステーション、および添付品がすべてそろっていることを確認 してください(添付の構成品表を参照してください)。万一、足りないものや破損しているも のがあったときはお買い求めの販売店に連絡してください。また、システムを構築するため に必要となる機器についても確認しましょう。

日常での運用において、Expressワークステーションの状態を管理・監視できるようなシス テムを構築しておくことが望まれます。

添付のCD-ROM[EXPRESSBUILDER®]には、Expressワークステーション、および Express5800製品の状態を監視することができるサーバ/ワークステーション管理アプリ ケーション[ESMPRO®]が収録されています。ESMPROは、障害が起きたときに管理PCへ 障害を通知したり、その障害内容を採取したりすることができます。

ESMPROやその他の管理アプリケーション、ハードウェアの持つ機能などを効率よく使用 してシステム管理やセキュリティの強化を図ってください。

なお、Expressワークステーションに障害が発生した際に、NECフィールディング(株)がア ラーム通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス」を利用すれば、低コストで Express5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。

「エクスプレス通報サービス」をご利用することもご検討ください。



導入編

電源を入れる前に

Expressワークステーションをセットアップし、システムを構築する場合は、次の順序で行います。

① ハードウェアのセットアップ

Expressワークステーションを箱から取り出し、最適な場所に設置後、キーボード、マウス、ディスプレイ装置のケーブル、電源コードの順でExpressワークステーション背面のコネクタに接続します。

モデルによっては、グラフィックスアクセラレータボードが別売のものがあります。ボードを取り付けてからケーブルを接続してください。

★ イレーティングシステムのセットアップが完了するまでは、グラフィックスアクセラレー タボードを除く内蔵オプションの取り付けや周辺機器の接続をしないでください。これらの 作業は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから行います。

② オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションにはMicrosoft Windows XP Professional 日本語 版かMicrosoft Windows 2000 Professional 日本語版がすでにインストールされていま す。

Microsoft Windows XP Professional 日本語版プリインストールモデル

そのまま電源をONにすればユーザー固有の情報など必要な設定を入力するだけで使用で きるようになっています。

詳しい手順は12ページで説明しています。

[システムを修復する場合は...]

システムの修復をするときは、以下の2つの方法があります。

- システムの修復

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシ ステム修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外 にはお勧めできません。

詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

- 再セットアップ

システムの破損などが原因でオペレーティングシステム(OS)を起動できなった場合な どに添付のパックアップCD-ROMを使ってExpressワークステーションを再セット アップしてください。

再セットアップの方法については26ページで説明しています。

Microsoft Windows 2000 Professional 日本語版プリインストールモデル

そのまま電源をONにすればユーザー固有の情報など必要な設定を入力するだけで使用で きるようになっています。

詳しい手順は13ページで説明しています。

[システムを修復する場合は...]

システムの修復をするときは、以下の2つの方法があります。

- システムの修復

システムの修復とは、何らかの原因でOSを動作させるために必要なファイルが破損 した場合に、バックアップCD-ROMを使用してシステムを起動できる状態にするも のです。

破損したファイルが修復対象となっている場合は、各種ユーティリティやユーザー情報なども保存された状態でシステムを起動できるようにすることができますが、システムの修復を行っても、OSが完全な状態で起動されるとは限りません。その場合は次に説明する「再セットアップ」でシステムを復旧させてください。

システム修復の方法については「運用・保守編」で説明しています。

- 再セットアップ

システムの破損などの原因でOSを起動できなくなった場合などに、添付のバック アップCD-ROMを使って、Expressワークステーションを再セットアップしてください。

バックアップCD-ROMを用いた再セットアップ方法については35ページで説明しています。

[オペレーティングシステムをアップグレードするには...]

Windows 2000からWindows XPへアップグレードするには、別途オペレーティングシ ステムを購入してから、購入したオペレーティングシステムの再インストール手順を説 明している項目を参照してください。 導入編

③ 障害処理のためのセットアップ

障害が起きた時に障害からより早く確実に復旧できるように、メモリダンプの設定、ワトソン博士の設定を行います。

■ NECでは、ESMPROの他にも「エクスプレス通報サービス」と呼ばれるExpress5800製品の 状態監視用サービスを用意しています。Express5800製品に障害が起きたときに自動的に保 守サービス会社に通報され、保守サービス会社から保守情報の通知、または保守員の派遣な どのサービスを受けることができます。エクスプレス通報サービスをご契約することをお勧 めします。

④ 管理ユーティリティのインストール

システムで検出した障害情報の管理を行うためには、ESMPRO/ServerAgentをインストー ルします(ESMPRO/ServerAgentはCD-ROM[EXPRESSBUILDER]からインストールする ことができます)。また、ネットワーク上の管理PCからExpress5800製品の運用状態や障害 情報を確認する場合は管理PCにESMPRO/ServerManagerをインストールしてください(イ ンストールについては「ソフトウェア編」で説明しています)。ESMPRO/ServerManagerは Expressワークステーションにインストールして使用することもできます。



添付のCD-ROMには、「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」の2つのア プリケーションが含まれています。ESMPROには、その他にもさまざまな用途に応じたア プリケーションが用意されています。詳しくはお買い求めの販売店または保守サービス会社 にお問い合わせください。

⑤ システム情報のバックアップ

ハードウェアとソフトウェアのすべてのセットアップを完了したら、添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」のユーティリティを使用してExpressワークステーションのシステム 情報のバックアップをとります。

装置の故障による部品交換や修理の後にバックアップしていたシステム情報をリストアする ことで故障前と同じ状態でExpressワークステーションを使用することができます。

ネットワーク構築のポイント

ネットワークに接続する場合は、コンピュータ名やTCP/IPなどの設定が必要です。あらか じめ確認しておくことをお勧めします(後から変更することもできます)。 ネットワークを経由して、他のシステムからの指示によりExpressワークステーションの電 源を投入(リモートパワーオン)する場合は、CMOS Setupユーティリティの[Power

Management SetupJメニューの「Wake-Up by PME」を[Enabled]に設定します。

UPS接続時のポイント

Expressワークステーションの電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続している場合、 UPSからExpressワークステーションの電源を制御できる電源連動(AC-LINK)機能を使用す ることができます。

このAC-LINK機能を使用してExpressワークステーションの電源ON/OFFを行う場合は、 CMOS SETUPユーティリティの「Power Management Setup」メニューの「AC-Link」を [Power On]に設定します。また、UPSを正しく動作させるためにお使いになるUPSに合っ たソフトウェアの設定が必要です。ソフトウェア編を参照して正しく設定してください。

ストレージ機能構築のポイント

本装置では、別売品のSCSIコントローラボードを搭載することにより外付けのバックアッ プ装置を接続することができます。バックアップ装置とバックアップツールを使って定期的 に大切なデータのバックアップをとることをお勧めします。 主なバックアップツールは次のとおりです。

- Windowsバックアップツール(Windows標準)
- ARCserve(コンピュータ・アソシエイツ社)
- BackupExec(ベリタス社)
- NetBackup(ベリタス社)

導入編



NECでは、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、Club Expressの インターネットホームページ

http://club.express.nec.co.jp/

にてご登録ください。



「Club Express会員」のみなさまには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。ぜひ、ご覧ください。

セットアップ

箱を開けてからお使いになるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際は「再セットアップ」を参照してください。

1 ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

 グラフィックスアクセラレータボードが別売のモデルの場合は、別途購入したオプションのグラ フィックスアクセラレータボードを取り付ける。(→79ページ)

ਰਾ

その他の内蔵デバイスはオペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けて ください。

- 2. Expressワークステーションを使用するのに最も適した場所(環境)に設置する。(→49ページ)
- 3. ディスプレイ装置やマウス、キーボードのケーブルをExpressワークステーションに接続する。 (→51ページ)

ਰਾ

プリンタなどの周辺機器はオペレーティングシステムのセットアップを完了してから接続して ください。

- 4. 添付の電源コードをExpressワークステーションと電源コンセントに接続する。(→51ページ)
- 5. 装置の構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

90ページに示す設定例を参考にしてください。



BIOSのパラメータで時刻や日付の設定と確認をしてください。

2 オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションのハードディスクは、Windows XP Professional またはWindows 2000 Professionalがお客様の個別情報を設定する前の状態でインストー ル済みです。

セットアップの手順

初めて電源をONにしてセットアップするときは、次の手順でExpressワークステーションを 起動して、セットアップを始めます。

 本装置にインストールされているService Packのバージョンと、装置に添付されている Service Packのバージョンが異なる場合があります。
 装置にインストールされているService Pack以降のバージョンが添付されている場合は、
 装置に添付の「Windows 2000 RURx 対応(Service Pack x)インストール手順書」または「Windows XP RUR×対応(Service Pack×)インストール手順書」を参照してService Packのインストールを行ってください。
 Service Pack情報に関しては、下記サイトより詳細情報をご確認ください。

[NEC 8番街] http://nec8.com/

Windows XP Professionalの場合

Microsoft Windows XP Professionalがあらかじめインストールされているモデルの場合は、次の手順に従ってセットアップをしてください。



セットアップを完了するまでは、キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外のデバイスを 接続しないでください。

- 1. フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブにディスクがセットされていないことを確認する。
- 2. Expressワークステーションの電源をONにする。

Expressワークステーションは自動的にPOSTを開始し、その後、「Windowsへようこそ」が開始 されます。

3. 画面のメッセージに従って各種設定を完了させる。

お客様固有のセットアップをするための画面が表示されます。表示されたメッセージに従って セットアップを進めてください。

4. インストールの完了後、システムにログオンする。

以下のソフトウェアも併せてインストールされます。ソフトウェアのセットアップについては、 「ソフトウェア編」または添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に格納されているオンラインド キュメントを参照してください。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス
- FastCheck

以上でインストールは完了です。続いて「デバイスドライバ(標準装備)のセットアップ」に進んで ください。

Windows 2000 Professionalの場合

Microsoft Windows 2000 Professionalがハードディスクにインストール済みのモデルでは、次の手順に従ってセットアップをしてください。



セットアップを完了するまでは、キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外のデバイスを
 接続しないでください。

- 1. フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブにディスクがセットされていないことを確認す る。
- 2. Expressワークステーションの電源をONにする。

Expressワークステーションは自動的にPOSTを開始し、その後、「Windows 2000 Professional へようこそ」が開始されます。

3. 画面のメッセージに従って各種設定を完了させる。

お客様固有のセットアップをするための画面が表示されます。表示されたメッセージに従って セットアップを進めてください。

4. インストールの完了後、システムにログオンする。

以下のソフトウェアも併せてインストールされます。ソフトウェアのセットアップについては、 「ソフトウェア編」または添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に格納されているオンラインド キュメントを参照してください。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス
- FastCheck

以上でインストールは完了です。続いて「デバイスドライバ(標準装備)のセットアップ」に進んで ください。

デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップ

オプションのデバイスのドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添 付の説明書を参照してください。

Windows XP Professionalの場合

● ディスクドライバ(IDE)

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再 セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

• PROSet II

PROSet IIは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。GigaEthernetの設定に必須です。必ずインストールしてください。

PROSet I を使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、コンピュータに耐障害性 に優れた環境を提供し、サーバースイッチ間のスループットを向上させることができま す。このような機能を利用する場合にPROSet I が必要になります。

PROSet I をインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

- 1. CD-ROM[EXPRESSBUILDER]をCD-ROMドライブにセットする。
- スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をク リックする。
- **3.** 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥XP¥PC62C¥HD1¥WINDOWS¥PROSet2 ¥IA32」ディレクトリ内の「PROSet.msi」アイコンをダブルクリックする。
 [Intel(R) PROSet II-Installshield Wizard]が起動します。
- **4.** [Next]をクリックする。
- 5. [I accept the terms in the license agreement]を選択し、[Next]をクリックする。
- 6. [Typical]を選択し、[Next]をクリックする。
- [Install]をクリックする。
 [InstallShield Wizard Complated]ウィンドウが表示されます。
- 8. [Finish]をクリックする。
- 9. システムを再起動する。

▶ ネットワークドライバ(転送速度とDuplexモードの設定手順)

標準装備のネットワークドライバは自動的にインストールされていますが、転送速度と Duplexモードの設定が必要です。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク とダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示 させて行います。

- スタートメニューから[コントロールパネル]を選択する。
 [コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- 2. [コントロールパネル]ウィンドウで、「クラシック表示に切り替える」をクリックする。
- **3.** [Intel(R) PROSet I]アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PROSet Ⅱ]ダイアログボックスが表示されます。

- 4. リスト中の「Intel(R) 82540EM Based Network Connection」をクリックし、選択する。
- 5. [Link Config]タブをクリックし、[Auto Negotiation]を[Disabled]に指定し、[Forced Speed and Duplex]の項でHUBの設定値と同じ値に設定する。

ਰਾ

[1000/Full]の場合、[Auto Negotiation]を[Enabled]に指定し、[Negotiable Speeds and Duplexes]の項で[1000Mbps Full]のみをチェックし、他の項目の チェックを外して指定してください。

6. [Intel(R) PROSet Ⅱ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

● オプションのネットワークドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-85/111を使用する場合はEXPRESSBUILDER CD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

N8104-85/111のドライバ

[<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥XP¥PC62C¥FD1]

インストール手順が不明な場合は、「Windows XP Professionalインストレーションサ プリメントガイド」のネットワークドライバのインストール手順を参照してください。

● グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)

Expressワークステーションまたはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明 書とディスク(フロッピーディスクかCD-ROM)を使用してドライバをインストール後、 必要に応じて表示の設定などを行ってください。

• サウンドドライバ

サウンドドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップの際は、システムのアップデートを行うと自動的にインストールされます。

• USB 2.0ドライバ

USB 2.0ドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップの際は、システムのアップデートを行うと自動的にインストールされます。

Windows 2000 Professionalの場合

● ディスクドライバ(IDE)

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです(システムの修復や再 セットアップの際にも自動的にインストールされます)。

• PROSet II

PROSet IIは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。GigaEthernetの設定に必須です。必ずインストールしてください。

PROSet I を使用することにより、以下のことが行えます。

- アダプタ詳細情報の確認
- ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、コンピュータに耐障害性 に優れた環境を提供し、サーバースイッチ間のスループットを向上させることができま す。このような機能を利用する場合にPROSet I が必要になります。

PROSet I をインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

- 1. CD-ROM[EXPRESSBUILDER]をCD-ROMドライブにセットする。
- スタートメニューの[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をク リックする。
- 「<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥PC62C¥HD1¥WINDOWS¥PROSet2 ¥IA32」ディレクトリ内の「PROSET.MSI」アイコンをダブルクリックする。
- **4.** [Next]をクリックする。
- 5. [I accept the terms in the license agreement]を選択し、[Next]をクリックする。
- 6. [Typical]を選択し、[Next]をクリックする。
- [Install]をクリックする。
 [InstallShield Wizard Complated]ウィンドウが表示されます。
- 8. [Finish]をクリックする。
- 9. システムを再起動する。

▶ ネットワークドライバ(転送速度とDuplexモードの設定手順)

標準装備のネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、転送速度と Duplexモードの設定が必要です(システムの再セットアップの際にも自動的にインストー ルされます)。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク とダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示 させて行います。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択する。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

- [Intel(R) PROSet I]アイコンをダブルクリックする。
 [Intel(R) PROSet I]ダイアログボックスが表示されます。
- 3. リスト中の「Intel(R) 82540EM Based Network Connection Iをクリックし、選択する。
- 4. [Link Config]タブをクリックし、[Auto Negotiation]を[Disabled]に指定し、[Forced Speed and Duplex]の項でHUBの設定値と同じ値に設定する。

[1000/Full]の場合、[Auto Negotiation]を[Enabled]に指定し、[Negotiable Speeds and Duplexes]の項で[1000Mbps Full]のみをチェックし、他の項目の チェックを外して指定してください。

5. [Intel(R) PROSet Ⅱ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

● ネットワークドライバ(再インストール手順)

OSのインストール後にネットワークドライバを削除し、再インストールする場合は以下 の手順で再インストールしてください。

1. OSを再起動し、ログオンする。

[新しいハードウェアの検出ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

- **2**. [次へ]をクリックする。
- 3. [デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]ラジオボタンが選択されていることを確認し、 [次へ]をクリックする。
- [場所を指定]チェックボックスをチェックし、その他のチェックボックスのチェックを外し、 [次へ]をクリックする。

[新しいハードウェアの検出ウィザード]の別ダイアログボックスが表示されます。

- 5. EXPRESSBUILDER CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、ドライバの格納場所に[<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥PC62C¥FD1]と指定し、[OK]をクリックする。
- 6. [次へ]をクリックする。
- 7. [完了]をクリックする。

ネットワークドライバ再インストール後、転送速度とDuplexモードの再設定が必要です。前述の手順を参照し、再度設定し直してください。

● オプションのネットワークドライバ

ネットワークドライバの再インストール手順を参考にし、EXPRESSBUILDER CD-ROM に格納されているドライバをインストールしてください。

N804-85/111のドライバ

[<CD-ROMのドライブレター>:¥WINNT¥W2K¥PC62C¥FD1]

グラフィックスアクセラレータドライバ(ディスプレイドライバ)

Expressワークステーションまたはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明 書とディスク(フロッピーディスクかCD-ROM)を使用してドライバをインストール後、 必要に応じて表示の設定などを行ってください。

サウンドドライバ

サウンドドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップの際は、システムのアップデートを行うと自動的にインストールされます。

• USB 2.0ドライバ

USB 2.0ドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップの際は、システムのアップデートを行うと自動的にインストールされます。

システムのアップデート -Service Packの適用-

システムのアップデートは、Expressワークステーション購入時には自動で適用されていま すが、次のような場合は、必ずシステムのアップデートを行ってください。

- システムの修復を行った場合
- システムの構成を変更した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合 (Service Pack関連のExpress5800用差分モジュールを適用したシステムの場合は、再 度RURのFDを使用してExpress5800用差分モジュールを適用してください。このとき Service Packを再適用する必要はありません)

管理者権限のあるアカウント (Administratorなど)で、システムに ログインした後、CD-ROM [EXPRESSBUILDER]をExpressワークス テーションのCD-ROMドライブにセットし てください。

表示された画面「マスターコントロールメ ニュー」の[ソフトウェアのセットアップ] を左クリックし、メニューから[システム のアップデート]をクリックすると起動し ます。以降は画面に表示されるメッセージ に従って処理を進め、Service Packを適用 してください。



3 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のような セットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

Expressワークステーション内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。



ここで示す設定後、障害が発生した時にメモリダンプを保存するために再起動すると、起動 時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、その まま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合がありま す。

Windows XP Professionalの場合

次の手順に従って設定します。

- スタートメニューから[コントロールパネル]をクリックする。
 [コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- 2. [コントロールパネル]ウィンドウから[パフォーマンスとメンテナンス]をクリックする。

クラシック表示にしている場合は、[コントロールパネル]から直接[システム]をクリックして ください。

3. [システム]をクリックする。

[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

- 4. [詳細設定]タブをクリックする。
- 5. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。

୬ステム のプロパ ティ ? ×
全般 コンピュータ名 ハードウェア 詳細設定 システムの復元 自動更新 リモート
Administrator としてログオンしない場合は、これらのほとんどの変更はできません。
パフォーマンス 視覚効果、プロセッサのスケジュール、メモリ使用、および仮想メモリ
設定(5)
ユーザー ブロファイル ログオンに関連したデスクトップ設定
設定(E)
起動と回復
システム起動、システム障害、およびデバッグ情報
IRED.
環境支款(2) [1:13] [35(6)
OK キャンセル 適用(A)

禢入編

6. テキストボックスにデバッグ情報を書き 込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」という ファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP

∎ਾ0≣ੂ

- デバッグ情報の書き込みは[完全メ モリダンプ]を指定することを推奨 します。ただし、搭載メモリサイ ズが2GBを越える場合は、[完全メ モリダンプ]を指定することはでき ません(メニューに表示されませ ん)。その場合は、[カーネルメモ リダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。

起動と回復	?×
- #2番hや/フテノ	
既定のオペレーティング システム(S):	
"Microsoft Windows XP Professional" /fastdetect	~
□ オペレーティング システムの一覧を表示する時間(T):	30 ᅌ 秒間
☑ 必要なときに修復オブションを表示する時間(D):	30 💠 秒間
ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	編集(E)
システム エラー	
▽ システム ログにイベントを書き込む(Ѡ)	
✓管理者へ警告を送信する(N)	
二日朝町に再起動する(<u>R</u>)	
デバッグ情報の書き込み	
最小メモリ ダンプ (64 KB) 🗸 🗸	
最小ダンプ ディレクトリ:	
%SystemRoot%¥Minidump	
「既存のファイルに上書きする(Q)	
OK	キャンセル

- メモリ増設を行った場合は、採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)書き込み先の空き容量を確認してください。
- **7.** [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。

[パフォーマンスオプション]ウィンドウ が表示されます。

ͽλテムのフロルティ ? ×
全般 コンピュータ名 ハードウェア 詳細設定 システムの復元 自動更新 リモート
Administrator としてログオンしない場合は、これらのほとんどの変更はできません。
パフォーマンス 視覚効果、フロセッサのスケジュール、メモリ使用、および仮想メモリ
ログオンに関連したデスクトップ設定
設定(E)
起動と回復 システム起動、システム障害、およびデバッグ情報
設定①
環境変数(W) エラー報告(B)
OK キャンセル 適用(A)

8 [パフォーマンスオプション]ウィンドウ の[詳細設定]タブをクリックする。



9. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリッ クする。



 [選択したドライブのページングファイル サイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨] 値以上に変更し、[設定]をクリックす る。

> ページングファイルの[初期サイズ]は、 搭載メモリサイズの約1.5倍を目安に設定 してください。

ਰਾ

- 必ずOSパーティションに上記のサ イズで作成してください。
- ページングファイルの初期サイズ を「推奨」値未満に設定すると正確 なデバッグ情報を採取できない場 合があります。
- メモリを増設した際は、メモリサ イズに合わせてページングファイ ルを再設定してください。



- 再セットアップを行った場合は、ページングファイルがOSパーティション以外のパーティションに作成されることがあります。ページングファイルを作成するドライブを任意に変更してください。
- **11.** [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに 従って再起動してください。

Windows 2000 Professionalの場合

次の手順に従って設定します。

- スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
 [コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
- [システム]アイコンをダブルクリックする。
 [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 3. [詳細]タブをクリックする。
- 4. [起動/回復]をクリックする。



5. テキストボックスにデバッグ情報を書き 込む場所を入力する。

<Cドライブに「MEMORY.DMP」という ファイル名で書き込む場合>

C:¥MEMORY.DMP

₩0 **()**

- デバッグ情報の書き込みは[完全メ モリダンプ]を指定することを推奨 します。ただし、搭載メモリサイ ズが2GBを越える場合は、[完全メ モリダンプ]を指定することはでき ません(メニューに表示されませ ん)。その場合は、[カーネルメモリ ダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイ ズ+12MB以上の空き容量のある ドライブを指定してください。
- メモリ増設を行った場合は、採取 されるデバッグ情報(メモリダンプ) のサイズが変わります。デバッグ 情報(メモリダンプ)書き込み先の空 き容量の確認を行ってください。



6. [パフォーマンスオプション]をクリック する。

システムのプロパティ ? ×
全般 ネットワーク ID ハードウェア ユーザー プロファイル 『詳細
ハフォーマンム ノフォーマンスオブションは、コンピュータの処理速度に影響するアプリケー ションのメモリの使い方を管理します。
「パフォーマンス・オプション・ビー」
環境変数 環境変数は、特定の種類の情報の検索先を指定します。
環境変数(<u>E</u>)
記動/回復 記動/回復オプションは、記動方法とコンピュータが停止するエラーが発生 した場合の処理方法を指定します。
起動/回復(5)
OK 参考/か川 (通田(A)

7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をク リックする。

パフォーマンス オプション	<u>? ×</u>
ーアプリケーションの応答 パフォーマンスの最適化:	
⊙ アプリケーション(<u>A</u>) ○ バックグラウンド	サービス(<u>S</u>)
┌ 仮想メモリ ドライブすべてのページング ファイル サイズの合計:	192
OK	214

8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]をクリックする。

ページングファイルの[初期サイズ]は、搭載メモリサイズの約1.5倍を目安に設定してください。

₩O III EEEE

- 必ずOSパーティションに上記のサイズで作成してください。STOPエラーが発生したとき にデバッグ情報(メモリダンプ)を採取するために必要です。ページングファイルの[初期サ イズ]を[推奨]値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合 があります。
- メモリを増設した際は、必ずメモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行って ください。
- 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押し、正常にダンプが採取できることの確認 を行うことをお勧めします。
- ●「推奨値」については、「作成するパーティションサイズについて(37ページ)」を参照してください。
- 9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに 従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出 するとExpressワークステーションを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採 取できるよう次の手順に従って設定してください。



ワトソン博士の設定は、Expressワークステーション購入時、および再セットアップ時に自 動的に設定されています。

- 1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
- 2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。 ワトソン博士のダイアログボックスが表示されます。
- [ログファイルパス]ボックスに診断情報 の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で 保存されます。



ネットワークパスは指定できません。
 ローカルコンピュータ上のパスを指定
 してください。

[クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

「クラッシュダンプファイル」は Windows Debuggerで読むことができ るバイナリファイルです。

- 5. [オプション]ボックスにある次のチェッ クボックスをオンにする。
 - □ ダンプシンボルテーブル
 - □ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
 - □ 既存のログファイルに追加
 - □ クラッシュダンプファイルの作成

6. [OK]をクリックする。

<Windows XPでの表示例>



4 管理ユーティリティのインストール

添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」には、本装置監視用の「ESMPRO/ServerAgent」、 およびExpressサーバ・ワークステーション管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収 録されています。これらのユーティリティは、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」からインス トールすることができます。



詳細については、「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」または装置に 添付されている別冊の説明書などを参照して使用環境に合った状態に設定してください。 また、ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもありま す。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

再セットアップを行ったときは、個別にインストールしてください。

5 システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、EXPRESSBUILDERを使って、システム情報をバッ クアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リ ストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをしてください。

- 1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
- CD-ROM[EXPRESSBUILDER]をExpressワークステーションのCD-ROMドライブにセットして、再起動する。

EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

- 3. [ツール]-[システム情報の管理]を選ぶ。
- システム情報の管理]から[退避]を選択する。
 以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

再セットアップ

再セットアップとは、システムの破損などが原因でオペレーティングシステム(OS)を起動できなくなった 場合などに添付の「バックアップCD-ROM」を使ってハードディスクを出荷時の状態に戻してシステムを起 動できるようにするものです。

再セットアップは添付のCD-ROM[EXPRESSBUILDER]の メニューから起動します。

[シームレスセットアップ]をクリックすると、OSの再セットアップを開始します。



シームレスセットアップを使用しないインストール方 法など、特殊なセットアップについては、付録A「応用 セットアップ」で補足しています。



Windows XPの再セットアップ -シームレスセットアップ-

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってExpressワークステーション をセットアップします。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェアの内部的なパラメータや状態の設定から Windows XP、各種ユーティリティのインストールまでを添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく(シームレスで)セットアップできる Express5800シリーズ独自のセットアップ方法です。ハードディスクを購入時の状態と異な るパーティション設定で使用する場合やOSを再インストールする場合は、シームレスセッ トアップを使用してください。煩雑なセットアップをこの機能が代わって行います。

シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集 しフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に一 連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのこと を「セットアップパラメータFD」と呼びます。



OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

Windows XPの中で本装置がサポートしているバージョンはMicrosoft® Windows® XP Professional 日本語版(以降、「Windows XP」と呼ぶ)です。

Windows 2000については、この後の項を参照してください。その他のOSをインストール するときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

Windows XPについて

Windows XPは、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点につい て注意してください。



- インストールを始める前にオプションの増設やExpressワークステーション本体の セットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。
 - NECが提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明 書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照して ください。
 - シームレスセットアップを完了した後に19ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。
 - シームレスセットアップでは、ステップ バイ ステップ インタラクティブは自動でインストールされません。

Service Packについて

本装置に添付されているService Pack以降のService Packを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

[NEC 8番街] http://nec8.com/

<u>ミラー化されているボリュームへのインストールについて</u>

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完 了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

MO装置の接続について

Windows XPをインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ+ダンプファイルサイズ +ハイバネーション用サイズ+アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ	= 1400MB
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 12MB
ハイバネーション用サイズ	= 搭載メモリサイズ

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
 - 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズは、「2048MB+ 12MB」です。
 - その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが 必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、前述 の計算方法から

1400MB +(512MB × 1.5) + (512MB + 12MB) + 512MB +アプリケーションサイズ = 3204MB + アプリケーションサイズ

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

- 1. 「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」を設定する。
- **2.** 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別の ディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ+ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

<u>アップグレードインストールについて</u>

Windows 2000 Professionalからアップグレードインストールを行う場合は、Windows 2000を格納したパーティションに約630MBの空き容量が必要です。空き容量が不足している場合には、不要なファイルを削除するなどして、空き容量を確保してください。

セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。



※1 ディスクミラーリングコントローラが搭載されていて、セットアップパラメータファイルで「RAIDの新規作成」 がチェックされている場合のみ、この処理が実行されます。

※2 OSの選択で[その他]を選択したときはここで終了する。

セットアップの手順

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。 セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータ FDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MBフォーマッ ト済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDは EXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピー ディスクを1枚用意してください。

- ┏━〇 システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。
- Windows XPの起動後にグラフィックアクセラレータドライバやネットワークアダプ タなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの 「Microsoft Windows XP Professionalインストレーションサプリメントガイド」 を参照してください。
- 1. 周辺装置、Expressワークステーションの順に電源をONにする。
- ExpressワークステーションのCD-ROMドライブにCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
- CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源を OFF/ONしてExpressワークステーションを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

[シームレスセットアップ]をクリックする。

「セットアップパラメータFDを挿入して ください。」というメッセージが表示され ます。

5. 「セットアップパラメータFD」をフロッ ピーディスクドライブにセットし、 [確認]をクリックする。



チェック

- 「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBのフォーマット済みフ ロッピーディスク(ブランクディスク)をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認] をクリックしてください。
- セットしたセットアップパラメータFDは指示があるまで取り出さないでください。

導入編

[設定済みのセットアップパラメータFDをセットした場合]

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

 インストールに使用するセットアップ情報ファイル 名を選択する。



選択されたセットアップ情報ファイルに修正でき ないような問題がある場合(たとえば ExpressPicnic Ver.4以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど)、再度「セットアッ プパラメータFD」のセットを要求するメッセージが 表示されます。セットしたフロッピーディスクを 確認してください。

情報ファイル選択/入力	
ファイル名:(A)	
test.tre	
test2.tre	□ 戻る
test3.tre	東藤 込
	1750/02
	▼

セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、 修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

② 確認する場合は [確認]を、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[スキップ]をクリックする。

[確認]をクリック→手順6へ進む [スキップ]をクリック→手順7へ進む

[ブランクディスクをセットした場合]

 [ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分をクリック するか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

ファイル名を入力する。

[オペレーティングシステムインストールメニュー] が表示されます。リストには、装置がサポートして いるOSが表示されます。

③ リストボックスからインストールす る[Windows XP]を選択する。





6. [NEC基本情報] 画面で設定内容を確認 し、必要なら修正を行ってから [次へ] を クリックする。

画面中の「対象マシン」は機種によって表示が異なります。また、次ページの「重要」も必ずお読みください。

以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、[ヘルプ]をクリックして設定を確認し ながら画面を進めてください。設定内容 は必要に応じて修正してください。



₩O III

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください。
- ●「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパー ティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの 情報は保持されます(下図参照)。

第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション
削除	保持	保持

- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設 定値は実領域以上の値を指定しないでください。
- 「パーティション」に4095MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を 確保してWindows XPをインストールします。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない 場合もあります。
- 「大容量記憶装置OEM-FDの適用」はWindows XP用のシームレスセットアップではサポートしていません。
- ここでは日本語での入力はできません。使用者名と会社名を日本語で入力したい場合は、ロ グオン後に入力画面がポップアップされますので、その時に再入力してください。ここで は、仮の名前を入力してください。
- 「既存パーティションを使用する」を選択する場合、流用するパーティション(OSシステム パーティション以外)にActiveなパーティションが存在してはいけません。

- [NEC基本情報] 画面にある[再読込]をクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択 画面に戻ります。[再読込]は、[NEC基本情報] 画面にのみあります。
- [コンピュータの役割]画面にある[終了]をクリックすると、その後の設定はシームレスセッ トアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

設定を完了すると自動的に再起動します。

7. 追加するアプリケーションをインストー ルする。

シームレスセットアップに対応している アプリケーションを追加でインストール する場合は、メッセージが表示されま す。

追加するアプリケーションのインストール 媒体をCD-ROMまたはフロッピーディスク ドライブに挿入してください。
OK 終了

8. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」とセットアップパラメータFDをCD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブから取り出し、バックアップCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約]画面が表示されます。

 よく読んでから、同意する場合は、[同意 します]をクリックするか、<F8>キーを 押す。同意しない場合は、[同意しませ ん]をクリックするか、<F3>キーを押 す。

ਰਾ

同意しないと、セットアップは終了 し、Windows XPはインストールされ ません。

Windows XPと指定したアプリケーションは自動的にインストールされ、システムにログオンします。システムにログオンすると、[セットアップ情報]ウィンドウが表示されます。必要に応じて、使用者名と会社名を再入力してください。

次の使用指接契約をお務みください。 PageDown F-を使って200-りしてください。	リアトウェア使用許諾契約	
	次の使用許諾契約をお読みください。 PageDown キを使ってスクロールしてください。	
Windows 2000のうた次に同意されますか?	Windows 2000のうセンスに同意されますか?	
「同意しません」を選ぶとセットップを中止します。	「同意しません」を選ぶとせパップを中止します。	
WINDOWS 2000 を100mg るには、この契約への回意か必要です。	WINDOWS 2000 を1以下がするには、この契約への同意が必要です。	
同意します 同意しません	同意します 同意しません	

2ットアップ情報	x
使用者名と会社名を入力してください。 日本語も入力できます。	
使用者名	
日電太郎	ОК
会社名	キャンセル
NEC Corporation	

- 10. 14ページを参照し、デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップを行う。
- オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添 付の説明書を参照してドライバをインストールする。
- 12. 19ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。
- 13. 必要に応じて、「ステップ バイ ステップ インタラクティブ(SBSI)」をインストールする。

SBSIはWinodws XPを学習するためのトレーニングソフトウェアです。アニメーションと音声を 使用し、簡単で使いやすい学習環境が用意されています。 SBSIは、以下の方法でインストールできます。

- ① SBSI CD-ROMを、CD-ROMドライブにセットする。
- (2)「<CD-ROMドライブ>:¥setup.exe」を実行する。

メッセージに従ってインストールを行ってください。

- ③ 18ページを参照し、システムのアップデートを行う。
- 14. 25ページを参照してシステム情報のバックアップをとる。
- 以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。

Windows 2000の再セットアップ -シームレスセットアップ-

EXPRESSBUILDERの「シームレスセットアップ」機能を使ってExpressワークステーション をセットアップします。

「シームレスセットアップ」とは、ハードウェ アの内部的なパラメータや状態の設定から OS(Windows 2000)、各種ユーティリティ のインストールまでを添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」を使って切れ目なく (シームレスで)セットアップできる Express5800シリーズ独自のセットアップ 方法です。ハードディスクを購入時の状態と 異なるパーティション設定で使用する場合や OSを再インストールする場合は、シームレ スセットアップを使用してください。煩雑な セットアップをこの機能が代わって行います。



シームレスセットアップは、セットアップを開始する前にセットアップに必要な情報を編集 してフロッピーディスクに保存し、セットアップの際にその情報を逐一読み出して自動的に 一連のセットアップを進めるというものです。このとき使用されるフロッピーディスクのこ とを「セットアップパラメータFD」と呼びます。

- 本体にディスクアレイコントローラなどのRAIDボードやSCSIボード(「大容量記憶装置 コントローラ」と呼ぶ)を搭載し、システムディスクとして使用するハードディスクを接 続している場合は「導入編」の最後にある項も併せて参照してください。
 - 「セットアップパラメータFD」とはシームレスセットアップの途中で設定・選択する情報が保存されたセットアップ用ディスクのことです。

シームレスセットアップは、この情報を元にしてすべてのセットアップを自動で行いま す。この間は、Expressワークステーションのそばにいて設定の状況を確認する必要は ありません。また、再インストールのときに前回使用したセットアップパラメータFD を使用すると、前回と同じ状態にExpressワークステーションをセットアップすること ができます。

- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスク をご利用ください。
- セットアップパラメータFDはEXPRESSBUILDERにある「ExpressPicnic[®]」を使って事前に作成しておくことができます。

事前に「セットアップパラメータFD」を作成しておくと、シームレスセットアップの間 に入力や選択しなければならない項目を省略することができます。(セットアップパラ メータFDにあるセットアップ情報は、シームレスセットアップの途中で作成・修正す ることもできます)。Expressワークステーションの他にWindows 95/98/Me、Windows NT3.51以降またはWindows XP/2000で動作しているコンピュータがお手元にある場合 は、ExpressPicnicを利用してあらかじめセットアップ情報を編集しておくことをお勧 めします。

ExpressPicnicを使ったセットアップパラメータFDの作成方法については、124ページ で説明しています。

OSのインストールについて

OSのインストールを始める前にここで説明する注意事項をよく読んでください。

本装置がサポートしているOSについて

Windows 2000の中で本装置がサポートしているパージョンはMicrosoft® Windows® 2000 Professional 日本語版(以降、「Windows 2000」と呼ぶ)です。

その他のOSをインストールするときはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

Windows 2000について

Windows 2000は、シームレスセットアップでインストールできます。ただし、次の点に ついて注意してください。

- O インストールを始める前にオプションの増設やExpressワークステーション本体の 「主要 セットアップ(BIOSやオプションボードの設定)をすべて完了させてください。
 - NECが提供している別売のソフトウェアパッケージにも、インストールに関する説明 書が添付されていますが、本装置へのインストールについては、本書の説明を参照して ください。
 - シームレスセットアップを完了した後に19ページを参照して「メモリダンプの設定」などの障害処理のための設定をしてください。

Service PackEONT

本装置に添付されているService Pack以降のService Packを使用する場合は、下記サイトより詳細情報を確かめた上で使用してください。

[NEC 8番街] http://nec8.com/

ミラー化されているボリュームへのインストールについて

[ディスクの管理]を使用してミラー化されているボリュームにインストールする場合は、インストールの実行前にミラー化を無効にして、ベーシックディスクに戻し、インストール完 了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成あるいはミラーボリュームの解除および削除は[コンピュータの管理]内の[ディスクの管理]から行えます。

MO装置の接続について

Windows 2000をインストールするときにMO装置を接続したまま作業を行うと、インストールに失敗することがあります。MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要最小限のサイズは、次の計算式から求め ることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ+アプリケーションサイズ インストールに必要なサイズ = 1000MB ページングファイルサイズ(推奨) = 搭載メモリサイズ × 1.5 ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 12MB

- ★● 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(メモリダンプ)採取のために必要なサイ ズです。ページングファイルサイズの初期サイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデ バッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
 - 搭載メモリサイズが2GB以上の場合のダンプファイルサイズは、「2048MB+12MB」 です。
 - その他、アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーション が必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、前述 の計算方法から

 $1000MB + (512MB \times 1.5) + (512MB + 12MB) = 2292MB$

となります。

ヒント

シームレスセットアップでインストールする場合、必要最小限のパーティションサイズは以 下のように計算してください。

- Windows 2000 Service Pack を適用しない場合
 「前述の必要最小限のパーティションサイズ」もしくは「4095MB」のうち、どちらか大き
 い方
- Windows 2000 Service Packを適用する場合
 「前述の必要最小限のパーティションサイズ + 850MB」もしくは「4095MB」のうち、どちらか大きい方

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクへの再インストールについて

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残し たままでの再インストールはできません。

既存のパーティションを残したい場合は、CD-ROMFEXPRESSBUILDER」に格納されてい るオンラインドキュメント「Microsoft Windows 2000 Professionalインストレーションサ プリメントガイド」を参照して再インストールしてください。

インストレーションサプリメントガイドにもダイナミックディスクへのインストールに関す る注意事項が記載されています。

セットアップの流れ

シームレスセットアップで行うセットアップの流れを図に示します。



※1 ディスクミラーリングコントローラが搭載されていて、セットアップパラメータファイルで「RAIDの新規作成」 がチェックされている場合のみ、この処理が実行されます。

※2 OSの選択で[その他]を選択したときはここで終了する。

セットアップの手順

重要

次にシームレスセットアップを使ったセットアップの手順を説明します。 セットアップパラメータFDを準備してください。事前に設定したセットアップパラメータ FDがない場合でもインストールはできますが、その場合でもMS-DOS 1.44MBフォーマッ ト済みのフロッピーディスクが1枚必要となります。セットアップパラメータFDは EXPRESSBUILDERパッケージの中のブランクディスクを使用するか、お客様でフロッピー ディスクを1枚用意してください。

- ┏ システムの構成を変更した場合は「システムのアップデート」を行ってください。
 - Windows 2000の起動後にグラフィックアクセラレータドライバやネットワークアダ プタなどのドライバの変更、または追加する場合は、オンラインドキュメントの 「Microsoft Windows 2000 Professionalインストレーションサプリメントガイ ド」を参照してください。
 - セットアップを開始したら、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。
- 1. 周辺装置、Expressワークステーションの順に電源をONにする。
- ExpressワークステーションのCD-ROMドライブにCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
- CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源を OFF/ONしてExpressワークステーションを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

4. [シームレスセットアップ]をクリックする。

「セットアップパラメータFDを挿入して ください。」というメッセージが表示され ます。

 「セットアップパラメータFD」をフロッ ピーディスクドライブにセットし、「確 認]をクリックする。



チェック

- 「セットアップパラメータFD」をお持ちでない場合でも、1.44MBのフォーマット済みフ ロッピーディスク(ブランクディスク)をフロッピーディスクドライブにセットし、[確認] をクリックしてください。
- セットアップを開始したら、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。

[設定済みのセットアップパラメータFDをセットした場合]

セットした「セットアップパラメータFD」内のセットアップ情報ファイルが表示されます。

 インストールに使用するセットアップ情報ファイル 名を選択する。



選択されたセットアップ情報ファイルに修正でき ないような問題がある場合(たとえば ExpressPicnic Ver.4以前で作成される「Picnic-FD」をセットしているときなど)、再度「セットアッ プパラメータFD」のセットを要求するメッセージが 表示されます。セットしたフロッピーディスクを 確認してください。

情報ファイル選択/入力	1			
ファイル名:(A) test.tre				確定
test2.tre test3.tre		Ī		戻る 再読込
			•	

セットアップ情報ファイルを指定すると、「セットアップ情報ファイルのパラメータの確認、 修正を行いますか」というメッセージが表示されます。

② 確認する場合は [確認]を、確認せずにそのままインストールを行う場合は、[スキップ]をクリックする。

[確認]をクリック→手順6へ進む [スキップ]をクリック→手順7へ進む

[ブランクディスクをセットした場合]

 [ファイル名:(A)]の下にあるボックス部分をクリック するか、<A>キーを押す。

入力ボックスが表示されます。

2 ファイル名を入力する。

[オペレーティングシステムインストールメニュー] が表示されます。リストには、装置がサポートして いるOSが表示されます。

 リストボックスから[Windows 2000]を選択する。





OSのインストール中に設定する内容を確認する。

Expressワークステーション本体にディ スクミラーリングコントローラが搭載さ れている場合は、[アレイディスクの設 定]画面が表示されます。設定内容を確認 し、必要なら修正を行ってから[次へ]を クリックしてください。



次に、[NEC基本情報]画面が表示されま す。設定内容を確認し、必要なら修正を 行ってから [次へ]をクリックしてくださ い(画面中の「対象マシン」は機種によって 表示が異なります。)

以降、画面に表示される[次へ]、[戻る]、 [ヘレプ]をクリックして設定を確認しなが ら画面を進めてください。設定内容は必 要に応じて修正してください。

対象マシン	Express5800/xxx
DS の種類	Windows 2000 Professional
DS の言語	日本語
パーティションの使用方法	新規に作成する
いーティションサイズ (全領域=*)	4095
ファイルシステムの NTFSへのコンバート	する
サービスバックの適用	する
(),2,1-111,1-2	WINNT

∎ਾ0≣ਾ

- OSをインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズで確保してください。
- ●「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択すると、最初のパー ティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの 情報は保持されます(下図参照)。

第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション	
出现全	/D+±	/D+±	
則际	1禾/守	休持	

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません(37ページ参照)。「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択しないでください。
- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設 定値は実領域以上の値を指定しないでください。
- 「パーティション」に4095MB以外を指定した場合はNTFSへのコンバートが必要です。
- 「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したとき、流用するパーティション以外にパーティションが存在しなかった場合、そのディスクの最大領域を 確保してWindows 2000をインストールします。
- 「パーティションの使用方法」で「新規に作成する」を選択したとき、「パーティション」の設 定値は120GB以上の値を指定しないでください。
- インストールするハードディスクの実領域が120GB以上になる場合(アレイディスクも含む)は、パーティションサイズに「全領域」を指定しないでください。
- 設定内容に不正がある場合は、次の画面には進めません。
- 前画面での設定内容との関係でエラーとなり、前画面に戻って修正し直さなければならない 場合もあります。
- ここでは日本語での入力はできません。使用者名と会社名を日本語で入力したい場合は、ロ グオン後に入力画面がポップアップされますので、その時に再入力してください。ここで は、仮の名前を入力してください。

- [NEC基本情報]画面にある[再読込]をクリックすると、セットアップ情報ファイルの選択 画面に戻ります。[再読込]は、[NEC基本情報]画面にのみあります。
- [コンピュータの役割]画面にある[終了]をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

設定を完了すると自動的に再起動します。

7. オプションの大容量記憶装置ドライバの モジュールをコピーする。

オプションの大容量記憶装置ドライバを インストールする場合は、大容量記憶装 置に添付されているフロッピーディスク をフロッピーディスクドライブにセット し、メッセージに従って操作してくださ い。

 追加するアプリケーションをインストー ルする。

シームレスセットアップに対応している アプリケーションを追加でインストール する場合は、メッセージが表示されま す。

「大容量記憶装置用OEM-FD」をフロッビーディスク ドライブに挿入してください。		
OK 終了		
	1	
追加するアフリケーションのインストール 媒体をCD-ROMまたはフロッピーディスク ドライブに挿入してください。		

OK 終了

9. メッセージに従ってCD-ROM「EXPRESSBUILDER」とセットアップパラメータFDをCD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブから取り出し、バックアップCD-ROMをCD-ROMドライブにセットする。

[ソフトウェア使用許諾契約]画面が表示されます。

よく読んでから、同意する場合は、[同意します]をクリックするか、<F8>キーを押す。同意しない場合は、[同意しません]をクリックするか、<F3>キーを押す。

₩ O EE	
同意しないと、セットアップは終 し、Windows 2000はインストー されません。	了 ル

		-	
		-	
F.,			
への同意が必要	ヨブホ		
	.	¢.	φ.

- 11. NEC基本情報で「サービスパックの適用」を[する]にした場合は、次の操作をする。
 - メッセージに従ってセットアップパラメータFDをフロッピーディスクドライブから取り出し、バックアップCD-ROMをCD-ROMドライブから取り出す。
 - メッセージに従ってWindows 2000 Service PackのCD-ROMをCD-ROMドライブにセット する。

Windows 2000と指定したアプリケー ションは自動的にインストールされ、シ ステムにログオンします。システムにロ グオンすると、[セットアップ情報]ウィ ンドウが表示されます。必要に応じて、 使用者名と会社名を再入力してくださ い。

セットアップ情報	x
使用者名と会社名を入力してください。 日本語も入力できます。	
使用者名	
日電太郎	ок
会社名	キャンセル
NEC Corporation	

- 12. 16ページを参照し、デバイスドライバ(本体標準装備)のセットアップを行う。
- オプションのデバイスでドライバをインストールしていないものがある場合は、オプションに添 付の説明書を参照してドライバをインストールする。
- 14. 19ページの「障害処理のためのセットアップ」を参照してセットアップをする。
- 15. 25ページを参照してシステム情報のパックアップをとる。

以上でシームレスセットアップを使ったセットアップは完了です。